

中国校長評価制度と機能に関する研究

李, 昱輝

<https://doi.org/10.15017/1398271>

出版情報：九州大学, 2013, 博士（教育学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

論文要旨

校長評価制度の導入は自律的学校経営のもと、教育行政の権力的行為方式、及び校長人事管理策略と方法の大きな転換を意味している。人事評価制度というものには多かれ少なかれ管理の意図を備えている。にもかかわらず、評価主体・評価内容・評価活用等構成要素により、人事評価制度はむしろ様々な機能を呈している。本研究は国家統治性格が強い中国における校長評価制度が実際どのように機能しているかを捉えるのである。研究視座について、企業分野における評価活用という一軸の機能考察方法を改正し、主に評価内容と評価活用との二軸を以て、制度背景・評価組織と理念の検討を加え、評価機能を全般的に考察した。特に、評価内容の分類法に関して、中国旧来の集権的政治体制や今日の自律的学校経営の特徴に従い、「権威主義」・「合理主義」という対立の評価観からその性格を捉えた。こうした分類法と実証的考察の上で、「服従的」な評価内容と査定的評価活用を特徴とする今日校長評価制度の「統治型」機能を提示し、試験的取組の位置や課題を析出し、今後の評価機能の改善について提言した。